



保健師さんの活動や経験を生かした今後の取り組み（平成19年12月定例会）

今年7月に発生した新潟県中越沖地震被災地には、全国から保健師・看護師などの延べ約5700名の方が派遣されました。山口県からも10名の保健師が派遣され、避難所における健康管理や、要支援者への支援、被災自治体職員の健康相談などの保健活動を現地で展開してこられました。

本県にとって、今回の保健師さんの派遣事業は、大変有意義なものであり、彼女達の活動や経験は、県が今後、各種の対策を検討する上で、貴重な情報源であると思います。彼女達の活動報告から、県として、取り組まなければならない事は何であるのか、ご所見をお伺いいたします。

【健康福祉部長答弁】

今後、災害時に、臨機応変に対応できるよう、研修会等を通じ保健師のスキルアップに努めるとともに、県と市町間で、災害時要援護者の所在と必要なケアに関する情報を共有化するため、これらのリストやマップの作成などを、検討していきたいと考えております。

また、これまでの阪神・淡路大震災や新潟県中越地震時の経験と合わせて、今回の貴重な経験から得られた教訓を、今後の活動に活かしていくための、活動マニュアルとしてまとめ、保健所や市町の関係者に周知してまいります。